

令和4年度 基本施策評価シート

作成日 令和4年8月4日

基本施策	A2 まちなみ、自然を活かし、まちの質を高めます		
施策の目的 (対象と意図)	対象	意 図	
	市域全体が	まちなみ、自然等の地域の個性を活かし、魅力的になっている。	
長崎市第四次総合計画[後期基本計画] 基本施策掲載ページ		34ページ ~ 36ページ	
基本施策主管課名	景観推進室	所属長名	嶋本 千秋
関係課名	まちなか事業推進室、南総合事務所地域福祉課、北総合事務所地域福祉課、土木建設課、観光政策課、都市計画課、伊王島地域センター、高島地域センター、野母崎地域センター、外海地域センター、琴海地域センター、移住支援室		

基本施策の振返り

後期基本計画策定時の課題		後期基本計画期間の取組み(H28~R3年度)	
個別施策	A2-1	地域の景観や自然など個性を活かしたまちづくりを推進します	
ア 象徴的な建造物周辺の良好な景観の保全	⇒	(ア)良好な景観形成に係る指導・助言 ・景観法に基づく民間建築行為等の届出 ・ながさきデザイン会議やながさきデザインアドバイザーの派遣 ・屋外広告物法に基づく許可申請及び不適切物件への対応 ・景観重要建造物の指定及び維持管理に係る助成	
イ より良い景観、民間による景観形成の取組み促進のため、公共事業の景観形成の先導的役割		(ア)公共空間のデザイン向上 ・景観専門監による指導・助言や職員研修を実施 ・ながさきデザイン会議、ながさきデザインアドバイザーによる意匠・形態の誘導 ・都市サインの新設、改修	
ウ 地域の自然や歴史等の資源の活用		(ア)地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進 ・地域資源を活用したイベント開催の支援 ・地域おこし協力隊事業の推進 ・池島炭鉱体験施設を活用した体験型観光の実施 ・野母崎田の子地区再整備の実施 ・歴史的建造物の保存・活用等、地域の将来像についての歴史まちづくり計画を策定 ・地域の担い手となりうる移住者を増加させるための各種移住施策の実施	
エ 市民のまちづくりへの意識の醸成、まちづくり参加機会の増加		(ア)市民協働の推進 ・新たなまちづくり団体の認定 ・まちづくり団体と市民によるまちづくりの取り組み ・開港5都市景観まちづくり会議の開催 ・知っつく長崎における公共事業の紹介	
個別施策	A2-2	まちの回遊性を高め、歩いて楽しいまちなかをつくります	
ア まちなかの活力の維持・向上	⇒	(ア)まちぶらプロジェクトの推進 ・「まちなか軸」を中心としたエリアにおいて、賑わいの再生を図ることを目的とし、エリアの魅力づくり、軸づくり、地域力によるまちづくりの取り組み	



成果及び効果 (H28～R3年度)

個別施策	A2-1	地域の景観や自然など個性を活かしたまちづくりを推進します
------	------	------------------------------

①良好な景観形成に係る指導・助言

- ・景観法に基づく民間建築行為等の届出(期間中に 863件)及び屋外広告物条例に基づく許可申請(期間中に 3710件)に対する指導・助言、並びにながさきデザイン会議等における専門家の助言による誘導により、その地域の特色に応じた意匠・形態など良好なまちなみ形成が進み、「まちなみや景観に誇りを感じる市民の割合」が、増加(H28:83.6%→R3:87.5%)した。
- ・景観重要建造物への指定により助成制度が活用できるようになり、建造物の持続的な維持・管理につながった。
- ・屋外広告物の許可申請がなされていない不適切な広告物について指導を行った結果、対象物件の約2割の広告物について許可申請又は除却がされたことで良好なまちなみの形成につながった。

②公共空間のデザイン向上

- ・事業計画段階から景観専門監と協議を重ねることにより、出島表門橋公園や平和公園周辺などの質の高い公共空間の整備につながっており、出島の復元と対岸の公園整備を一体的に実現したまちづくり事業においては令和3年度の都市空間部門において都市景観大賞を受賞した。
- ・景観専門監による研修をとおして、事業を計画する際に、より良い「全体」を生み出す「部分」を考えていく姿勢や、市民・専門家との対話・協働により事業の質を高めることなど、職員の景観に関する技術研鑽が進んでいる。
- ・案内及び誘導サイン(期間中に511件)の設置等により出島など主要な施設を利用する市民や観光客へ快適で安全な誘導ができた。

③地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進

- ・高島、外海及び琴海地区において3名の地域おこし協力隊員による地域と協働での様々なイベント(ファミリー釣り教室&釣り大会 in 高島など)の開催や耕作放棄地を活用して稲作や新商品の栽培を行うほか地域の情報発信、PR活動等を行うことで、地域の自然や風土を活かしたまちづくりを推進し、交流人口の拡大につながった。(令和元年度以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少)そのほかホームページで空き家情報について発信するなど移住支援の推進に寄与した。
- ・野母崎田の子地区の再整備によって、R3年10月に長崎のもぎき恐竜パークが誕生し、R4年3月末時点で恐竜博物館に102,842名が訪れるなど、交流人口が拡大し、地域の活性化にもつながった。
- ・H31年4月に移住に関する専任組織「移住支援室」を設置し、移住に関する総合相談窓口で相談に対応するなど各種移住施策を実施することで、移住者数が3年連続で増加(R1:292人R2:344人、R3:418人)し、企業の人材や地域の担い手の確保にもつながった。

④市民協働の推進

- ・長崎市都市景観賞に関して各種広報媒体を活用し周知を行った結果、選考等に関する市民投票数が大幅に増加(市民投票数:H29:392件→R3:846件)するなど都市景観への意識向上が図れた。
- ・景観賞などを受賞した建造物が増えていくことで自分達のまちに誇りや愛着を持つ市民が増加し、市民主体のまちづくりにつながる。
- ・開港5都市景観まちづくり会議において港を中心に発展した長崎の土木構造物を水面や地上から巡る体験ツアーなど多くの分科会を開催した。各分科会では、新潟市などのまちづくり関係者と市民とが意見交換やまちづくりにおけるディスカッション等、多岐にわたり交流をしたことで景観に対する意識がより一層向上した。

個別施策	A2-2	まちの回遊性を高め、歩いて楽しいまちなかをつくります
------	------	----------------------------

①まちぶらプロジェクト推進

- ・エリアの魅力づくりとして、市街地再開発事業や、町家などへの助成による和のまちなみ形成への支援(期間中に25件)、土神堂前広場整備などの唐人屋敷顕在化事業、地元協議会と連携したまちづくり計画の策定(令和3年度)等を行い、各エリアの魅力が向上し、市民などのまちに対する関心が高まった。
- ・軸づくりとして、まちの魅力映像の放映(認定事業者の店舗等37箇所)や「まちなかの食」へ誘導するポスターの掲示などによる情報発信により、まちなかエリアの回遊性が向上した。
- ・地域力によるまちづくりとして、お寺を巡る寺町BURARIなど地域によるまちづくりのスタートアップ支援となるまちなか賑わいづくり活動支援事業を実施(期間中に24件)するとともに、浜んまちMachiPianoなどをまちぶらプロジェクトへを認定(期間中に54件)したことにより、市民のまちづくりに対する機運が高まり、まちなかの賑わいづくりの当事者としての意識醸成がなされた。

問題点とその要因(H28～R3年度)		
個別施策	A2-1	地域の景観や自然など個性を活かしたまちづくりを推進します
<p>①良好な景観形成に係る指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外広告物許可制度の認知不足のため不適切な広告物が未申請のまま掲出されることでまちの景観が阻害される。 <p>②地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活かしたイベント等への参加者数については、外的要因により多くのイベントを中止したことも影響し、目標を達成できなかった。 ・地域のまちづくり組織の構成員の高齢化及び若い世代の都市部への流出などによる地域の担い手(人材)不足等により、隊員の業務が多様化・多忙化してきているため、隊員の活動を行いながら任期終了後の定住・起業に向けた準備を行うことが難しい状況にある。 ・移住者数は3年連続で増加し、目標値も達成しているものの、R1年度からの3年間の状況として移住者のうちIターン者が29.5%となっており、Iターンを検討している方の移住先の候補に長崎市が選ばれていない可能性が考えられる。 ・R1年度からの3年間の移住者の移住先としては、市内中心部が76.7%を占めており、移住を検討している方に豊かな自然に囲まれた暮らしができる周辺地区の魅力が伝わっていない可能性が考えられる。 		
個別施策	A2-2	まちの回遊性を高め、歩いて楽しいまちなかをつくります
<p>③まちぶらプロジェクト推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、まちなかエリア内や駅周辺とまちなかをつなぐ民間案内所等に係る事業者との連携に時間を要しており、まちなかへのさらなる人流の誘導が図れていない。 ・市民のまちづくりに対する機運は向上中であるものの、まちぶらプロジェクトの認知度が低く、新たなまちづくりの一員として参画する余地がある。 		

今後の取組方針

※【】内は五次総合計画における個別施策

A2-1→【A1-3 地域の景観や自然などの個性を守り、みがき、活かします】

①良好な景観形成に係る助言・指導

・良好な景観形成に関して、未申請の不適切な広告物を含めて屋外広告物条例による助言・指導を行う。

②公共空間のデザイン向上

・今後も景観専門監やながさきデザイン会議などによる助言・指導や職員の景観に関する研修を行う。また、景観に配慮した都市サインの適切な整備と維持を行うことで、公共空間のデザイン向上を図る。

③地域の魅力向上

・地域の個性を活かしたまちづくり活動をより一層推進するため、地域コミュニティ連絡協議会など地域の団体と連携し、地域おこし協力隊員の活動を積極的にサポートするとともに、隊員の定住・起業に向けた支援を図る。

・地域の自然や風土を活かしたまちの魅力向上と、長崎独自の歴史や伝統を反映した人々の営みと一体となって形成された良好な市街地の環境、いわゆる歴史的風致をみがき活かす。

移住については→【C 2-3 働く世代を中心とした移住を促進し、地域や企業を活性化させます】

④地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(移住支援の取り組み)

・更なる移住者数の増加を図るため、将来的な移住者となる可能性がある関係人口の創出・拡大を図る。

・移住検討者の移住先の候補に選ばれるよう、長崎市で暮らす魅力の発信強化や長崎の魅力を体験できる取り組みを行う。

A2-2→【A2-1 観光資源を磨き、魅力あるコンテンツを創造します】

①まちぶらプロジェクトの推進

・長崎駅等の集客施設からまちなかへ人を誘導するため、民間事業者との連携も含め、回遊性向上の取組みを進める。

・まちづくりへの市民の参画を促すため、10周年イベントやまちぶらプロジェクトの映像等により、効果的にまちなかの情報発信を行う。

成果指標

※「◇」は目標値を上回ることが望ましい指標、「▽」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
日頃、「まちづくり」等の活動や運動に参加している市民の割合	39.7% (26年度)	↑ 目標値	43.1	44.8	46.5	48.2	50.0	50.0
		実績値	30.3	31.4	30.7	33.6	35.4	36.0
		達成率	70.3%	70.1%	66.0%	69.7%	70.8%	72.0%
【補助代替指標】 長崎の街並みや景観に誇りを感じる市民の割合【A2-1から再掲】※2	83.1% (26年度)	↑ 目標値	84.6	85.4	86.1	86.9	87.6	88.7
		実績値	83.6	82.3	87.0	88.0	89.0	87.5
		達成率	98.8%	96.4%	101.0%	101.3%	101.6%	98.6%
【補助代替指標】 「自然やまちの景観」に関する観光客の満足度【A2-1から再掲】※2	83.8% (25年度)	↑ 目標値	86.5	87.3	88.2	89.1	90.0	90.0
		実績値	96.6	84.8	96.9	90.5	89.7	81.6
		達成率	111.7%	97.1%	109.9%	101.6%	99.7%	90.7%
【補助代替指標】 まちぶらプロジェクト認定件数【A2-2から再掲】※2	0件 (25年度)	↑ 目標値	40	50	60	70	80	90
		実績値	40	51	62	68	80	89
		達成率	100.0%	102.0%	103.3%	97.1%	100.0%	98.9%

基本施策の評価

Dd 目標を達成しておらず、目的達成に向けた課題の克服などが遅れている

判断理由

- ・基本施策の成果指標のすべてが100%未満の目標達成率で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「D」とする。
- ・個別施策の成果指標すべてが100%未満の目標達成率で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「d」とする。

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Dd」については所管評価のとおり。
- 移住に関する取組み等について、基本施策シートに記載がないが重要な施策であるため追記すべき。

令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	A2-1	地域の景観や自然など個性を活かしたまちづくりを推進します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図		
	景観や自然等の地域の個性が	まちづくりに活かされている。		
個別施策主管課名	景観推進室	所属長名	嶋本 千秋	

令和3年度の取組概要

- ①良好な景観形成に係る助言・指導
- ・建造物の外観に地域の景観上の特徴を有し、良好な景観を形成するうえで重要な建造物である景観重要建造物の維持管理に係る助成2件を行った。
 - ・景観法に基づく民間の建築行為等の届出があった177件に対して、景観計画の景観形成基準に基づく審査を行うとともに、大規模な建築物等については、「ながさきデザイン会議」12件や、町家等への改修に際し、「ながさきデザインアドバイザー協議」7件の助言など、その地域の特色に応じた意匠・形態や色彩へと誘導を行った。
 - ・屋外広告物条例に基づく許可申請のあった549件に対して、審査を行い必要に応じて指導を行った。また、未申請や更新申請のなされていない広告物については許可申請の徹底を図るための周知を行った。
 - ・屋外広告物の研修会において関係者に周知を図った。
- ②公共空間のデザイン向上
- ・良好な景観形成を先導するため、景観法等に基づく公共工事の通知のあった111件について審査を行い必要に応じて指導を行った。
 - ・景観形成重点地区内の事業を含む市の公共事業について景観専門監協議を284回、「ながさきデザイン会議」を5件開催し、その地域の特色に応じた意匠・形態や色彩へと誘導を行った。
 - ・市職員の景観に対する意識と技術の向上を図るため、職員研修所と連携し、新規採用職員144人及び採用10年目の職員86人を対象に景観専門監による研修を行った。
 - ・安全で快適な案内・誘導のため、景観に配慮した誘導サインの追加を3箇所及び、案内サインの修繕を2箇所、誘導サインの修繕を2箇所実施した。
- ③地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(地域おこし協力隊事業にかかる取組み)
- ・令和3年度は琴海・外海・高島地区で各1名の地域おこし協力隊が活動し、地域の自然や特産品を活用した取り組みが行われた。また、野母崎・伊王島地区については、令和3年度に募集を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から採用まで至らなかった。
- ④地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(その他の取組み)
- ・周辺地区の地域活性化の取組みとして、地元の各種団体や自治会、市民グループで構成する実行委員会等が開催するイベントの支援に取り組んだ。また、池島においては、毎月1回、地元自治会をはじめとした各種地域団体の代表者、学校、池島炭鉱の指定管理者、行政等の関係者が一堂に会し、池島におけるまちづくりの方向性の検討や情報共有等を図る「池島活性化会議」において、炭鉱体験事業の振興に係る意見交換を行う等、地域が一丸となって集客に取り組んだ。
 - ・野母崎田の子地区再整備の取組みとして、令和3年10月の長崎のもぎき恐竜パークのオープンにあわせて、地域の産業団体が中心となり設立した「野母崎産業活性化協会」が、地域情報発信を行う拠点施設に併設して、地域活性化を目的とした物販等の出店活動に対する支援に取り組んだ。
- ⑤市民協働の推進
- ・他都市のまちづくり関係者と市民とが交流できる開港5都市景観まちづくり会議を開催した。
 - ・長崎市景観まちづくり地域団体である風頭公園景観振興会について、地域の景観形成を推進する景観まちづくり地域団体活動助成を行った。
 - ・新たな景観建築物の発見のため、市民公募型の長崎市都市景観賞を開催した。
- ⑥歴史的資源を活かしたまちづくりの推進
- ・令和3年11月、国の認定を受けた長崎市歴史的風致維持向上計画の重点区域である東山手・南山手地区において、地域主体の長崎居留地歴史まちづくり協議会と協働でまちの将来像や取組方針等についてまとめた長崎居留地歴まちグランドデザインを策定した。

⑦地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(移住支援の取り組み)

- ・長崎市の人口減少対策として長崎市への移住者を増加させるため、移住の相談窓口「ながさき移住ウェルカムプラザ」で「仕事」「住まい」等に関する相談に対応するほか、大都市やオンラインでの移住相談会に参加し、令和3年度は1,561件の移住相談に対応した。
- ・移住支援ホームページ「ながさき人になろう」の運営や移住専門誌「TURNS」への記事掲載を通して、長崎市で暮らす魅力など移住に関する情報発信を行った。
- ・移住前に現地視察に訪れた際にレンタカーの貸し出しを行うなど移住準備のための支援を行った。
- ・移住者の移住に伴う経済的負担を軽減するため、東京圏からの移住者に対する「移住支援補助金」や子育て世帯の移住者に対する「子育て世帯ウェルカム補助金」を交付した。
- ・将来的な移住につながる関係人口の創出・拡大のため、ワーケーションの推進に取り組んだ。
- ・移住者が長崎市に定住できるよう「ながさき移住ウェルカムプラザ」の相談員による移住後のサポートを行った。
- ・長崎県及び長崎市を含む県内21市町が協働運営する「ながさき移住サポートセンター」の事業費及び運営費を負担した。

評価(成果)

①良好な景観形成に係る助言・指導

- ・景観重要建造物の適切な保全のための改修助成を行うことで、建造物が適正に維持管理され、良好な景観が保たれた。
- ・景観法に基づく民間の建築行為等の届出に対する審査及び「ながさきデザイン会議」、「ながさきデザインアドバイザー」の助言等による意匠・形態の誘導により、良好なまちなみの形成が進んだ。

②公共空間のデザイン向上

- ・景観専門監協議や「ながさきデザイン会議」等の意見も踏まえて長崎駅周辺の各施設など、質の高い公共空間となった。
- ・景観専門監による新規採用職員研修や担当職員のOJTを行うことにより、職員の景観に関する意識向上がなされた。

③地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(地域おこし協力隊事業にかかる取り組み)

- ・地域おこし協力隊の活動による新たな魅力の掘り起こしや、多様なツールを活用した情報発信を行うことで地域の魅力の周知拡大が図られた。

④地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(その他の取り組み)

- ・周辺地区の地域資源を活かしたイベントの開催等の支援をしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により参加者は減少した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、集客ができなかったが、池島においては「池島活性化会議」を中心とした地域内部での連携及び地域と行政との連携による観光客の受入体制が構築されている。
- ・恐竜博物館の建設を契機ととらえ、地元が主体的に地域振興や産業の活性化に取り組む気運が高まっている。

⑤市民協働の推進

- ・開港5都市景観まちづくり会議において多くの分科会を開催したことで他都市のまちづくり関係者と市民とが多岐にわたり交流することで、より一層景観に対する意識が向上した。
- ・風頭公園景観振興会へ助成をすることで、風頭公園周辺のまちづくり活動の推進となり、良好な景観が整備された。

⑥歴史的資源を活かしたまちづくりの推進

- ・長崎居留地歴史まちづくり協議会と長崎市との協働で、重点区域歴史まちづくり計画(長崎居留地歴まちブランドデザイン)を策定した。

⑦地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(移住支援の取り組み)

- ・令和3年度の移住者数は、目標200人に対し、418人であり、令和元年度以降3年連続で増加し、企業の人材や地域の担い手の確保にもつながった。

評価(問題点とその要因)

①良好な景観形成に係る助言・指導

- ・景観法に基づく届出が必要な行為であっても建築主及び設計者、施工者の一部に法的手続きの認識が不足しているため、未届のまま建築行為等が行われる場合がある。
- ・屋外広告物条例に基づく許可申請が必要なものであっても、広告主及び設計者、施工者の一部に法的手続きの認識が不足しているため、未申請のまま表示・設置される場合がある。

②公共空間のデザイン向上

- ・新規採用職員から研修を実施し、採用年度による研修を行っているが、全ての職員について景観に対する意識醸成が十分とは言えない。

③地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(地域おこし協力隊事業にかかる取組み)

- ・地域の担い手不足等により、隊員の業務が多様・多忙化しているため、隊員の活動を行いながら任期終了後の定住・起業に向けた準備を行うことが難しい状況にあることから、隊員が任期終了後、地域への定住・起業が一部できていない。
- ・令和3年度は募集を中止したが、契約を締結してから業務を開始するまでに十分な時間がとられていないために、隊員の住居が活動開始までに決まらないという問題が発生している。地元自治会にも空き家の情報提供を依頼しているが、空き家があっても故人の私物がそのままになっているなど、直ぐに隊員が住み始めるには難しい状況となっている。

④地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(その他の取組み)

- ・地域のまちづくり組織の高齢化が進むなか、これからまちづくりを担っていく若い世代の都市部への流出も目立っている。
- ・池島炭鉱跡を活用した体験型観光の取り組みを継続するには、環境整備等地域との連携が不可欠であるが、人材確保が難しくなっている。
- ・野母崎田の子地区再整備の取組みについては、地域の産業団体が中心となり、地元が主体となった地域振興や産業の活性化につながる活動を行っているが、これらの活動が野母崎地区以外の長崎半島地域全体には広がっていない。

⑤市民協働の推進

- ・地域のまちづくり活動がその中心的な役割を担う人材の高齢化により十分に機能しておらず、次の世代への継承が必要となっているが、少子化と合わせて若年世代の地域外への流出など担い手となる人材が不足している。

⑥歴史的資源を活かしたまちづくりの推進

- ・歴史的な営みや活動を継続する担い手が少子高齢化で減少している。
- ・歴史的建造物の所有者が高齢化しており、また、伝統建築に関する知識を有する技術者が不足しているため保存が難しくなっている。
- ・公開されている市有の歴史的建造物の多くが展示型となっており、経済効果や賑わいの創出としては、十分に生かされていない。また、体験型などの施設が少ない。

⑦地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(移住支援の取組み)

- ・移住者数は3年連続で増加し、年間の目標値も達成している状況にあるものの、令和3年度の移住者の状況としてUターン者が76.6%、Iターン者が23.4%となっており、Iターンを検討している方の移住先の候補に長崎市が選ばれていない可能性が考えられる。
- ・移住先の地域としては、市内中心部が78%を占めており、移住を検討している方に豊かな自然に囲まれた暮らしができる周辺地区の魅力が伝わっていない可能性が考えられる。

今後の取組方針

- ①良好な景観形成に係る助言・指導
 ・景観法に基づく民間の建築行為等の届出及び屋外広告物条例に基づく許可申請を徹底するため、建設等の関係団体に対して周知を図る。
- ②公共空間のデザイン向上
 ・市職員の景観に対する技術研鑽のため、職員研修所と連携をはかり、景観専門監による研修を新規採用職員のみでなく、引き続き採用10年次の職員研修を行っていくとともに、今後は研修対象者の拡大を図る。
- ③地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(地域おこし協力隊事業にかかる取組み)
 ・野母崎地区、伊王島地区においては、令和3年度に募集中止となったことから、令和4年度に募集を行う。
 ・令和4年度中に琴海地区では隊員の任期を迎えるため、新たに隊員の募集を行う。
 ・隊員の活動の支援だけでなく、生活環境の整備をはじめ、隊員の任期終了後の定住・起業に向けた支援も合わせて行う。
- ④地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(その他の取組み)
 ・地域のまちづくりの担い手確保の支援を行うとともに、イベントの効果的な運営、PR等について地域と協働して進める。
 ・野母崎田の子地区の再整備については、令和3年10月に完成し、「長崎のもぎき恐竜パーク」の指定管理者や地域産業団体等と連携を図り、地域の特産物を生かした商品の開発やイベントの企画など、具体的な活性化策を連携・支援していく。また、これらの活動を自治会等の協力を得ながら地域全体の活動に広げていく。
- ⑤市民協働の推進
 ・将来の地域の担い手となる子供達が自分達のまちの景観や自然に関心を持つために景観教室を行う。
- ⑥歴史的資源を活かしたまちづくりの推進
 ・地域主体の長崎居留地歴史まちづくり協議会と協働し、ランドデザインに基づく事業・取組みについてまとめた重点区域歴史まちづくり実施計画(長崎居留地歴史まちアクションプラン)を策定する。
 ・ランドデザインやアクションプランに基づき、地区計画の導入、景観まちづくりガイドライン策定、修景整備等を行う。
- ⑦地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(移住支援の取組み)
 ・都市部から地方への移住の機運の高まりやテレワークの普及を捉え、更なる移住者数の増加を図るため、ワーケーションの推進など将来的な移住者となる可能性がある関係人口の創出・拡大を図る。
 ・移住検討者の移住先の候補に選ばれるよう、長崎市で暮らす魅力の発信強化やグリーンツーリズムと連携するなど周辺地区の魅力体験できる取組みを行う。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
長崎の街並みや景観に誇りを感じる市民の割合 【A2へ再掲】	83.1% (26年度)	↑ 目標値	84.6	85.4	86.1	86.9	87.6	88.7
		実績値	83.6	82.3	87.0	88.0	89.0	87.5
		達成率	98.8%	96.4%	101.0%	101.3%	101.6%	98.6%
「自然やまちの景観」に関する観光客の満足度 【A2へ再掲】	83.8% (25年度)	↑ 目標値	86.5	87.3	88.2	89.1	90.0	90.0
		実績値	96.6	84.8	96.9	90.5	89.7	81.6
		達成率	111.6%	97.1%	109.9%	101.6%	99.7%	90.7%
景観まちづくりガイドラインの策定地区数	2地区 (27年度)	↑ 目標値	2	2	3	3	4	4
		実績値	2	2	2	2	2	2
		達成率	100.0%	100.0%	66.7%	66.7%	50.0%	50.0%
【補助代替指標】 地域資源を活かしたイベント等への参加者数	65,822人 (21年度)	↑ 目標値	67,200	61,400	61,600	68,000	57,000	57,000
		実績値	66,953	53,336	70,496	52,098	18,472	37,980
		達成率	99.6%	86.9%	114.4%	76.6%	32.4%	66.6%

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
1	(事業名) ながさきデザイン会議費 【景観推進室】 (事業目的) 公共事業及び大規模な建築物等の民間事業について、地域の特徴を活かしたデザインに配慮された質の高い公共空間をつくり、長崎の魅力を高めるため、計画段階から建築、デザイン、色彩の専門家によるデザイン等に関する助言を行う。 (事業概要) ・建築物等の色彩、デザインに関する助言	成果指標	ながさきデザイン会議の回数
		目標値	12 回
		実績値	12 回
		達成率	100.0 %
		決算(見込)額	342,620 円
		成果指標及び目標値の説明	ながさきデザイン会議においては、公共事業及び民間事業ともに、計画的かつ細やかな助言を行うことにより、より質の高い公共空間となりうるため、ながさきデザイン会議の回数を成果指標とした。 月に1度開催する計画とし、目標値を年12回とした。
取組実績、成果・課題等	(取組実績) ・ながさきデザイン会議を12回開催した。 ・民間事業 12件に対し、助言を行った。 ・公共事業 5件に対し、助言を行った。 (成果・課題等) ・地域の特徴を活かしたデザインに配慮された。 ・ながさきデザイン会議において、景観形成に基づく景観形成基準を補完するガイドラインの作成が求められている。 ・会議を計画的かつ定期的に開催する必要がある。		
2	(事業名) 屋外広告物対策費 【景観推進室】 (事業目的) 屋外広告物の規制や違反広告物の簡易除却等を通じて、良好な景観形成と風致の維持を図る。 (事業概要) ・屋外広告物許可制度の運用。 ・違反広告物の簡易除却。 ・屋外広告物に関する講習会の開催。 ・ふれあい掲示板の運用。	成果指標	屋外広告物許可申請件数
		目標値	584 件
		実績値	549 件
		達成率	94.0 %
		決算(見込)額	3,008,371 円
		成果指標及び目標値の説明	良好な景観形成を図るためには、適法に許可を受けた屋外広告物を増やしていくことが必要であるため、許可申請件数を評価指標として設定した。 目標値は3ヶ年(平成30年～令和2年度)平均申請件数の実績平均584件とした。
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 許可申請件数 549件 (成果・課題等) 平成25年度に実施した掲出状況実態調査の成果に基づき、現地調査を行い、申請指導を継続して実施した。引き続き、未許可広告物の申請指導に計画的に取り組む。		

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード:A2-1】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
3	<p>(事業名) 過疎地域活性化事業費 【伊王島地域センター】 【高島地域センター】 【野母崎地域センター】 【外海地域センター】</p> <p>(事業目的) 過疎地域である伊王島地区、高島地区、野母崎地区、外海地区において、地域の住民や団体等が主体となってイベントを開催することで、過疎地域の魅力発信及び交流人口の拡大に寄与し、地域活性化を図る。</p> <p>(事業概要) 開催イベント ①伊王島フェスタ ②しまめぐり双六 in 高島 ③UMIBOUZ in 高島 ④ファミリー釣り教室&釣り大会 in 高島 ⑤のもぎき水仙まつり ⑥野母崎地区活性化イベント ⑦池島炭鉱閉山20周年事業ステップUP池島まつり ⑧鯉・来い祭り IN 神浦川河川公園 ⑨神浦さんぼみち</p> <p>【A3-1へ再掲】</p>	成果指標	集客人数
	目標値	57,000 人	
	実績値	37,980 人	
	達成率	66.6 %	
	決算(見込)額	6,021,950 円	
	成果指標及び目標値の説明	<p>過疎地域の交流人口の拡大を図るためには、イベントにより集客を増やすことが必要なため、集客人数を成果指標とする。</p>	
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) ・伊王島フェスタ: 中止 ・しまめぐり双六 in 高島: 中止 ・UMIBOUZ in 高島: 4,822人 ・ファミリー釣り教室&釣り大会 in 高島: 90人 ・のもぎき水仙まつり: 32,568人 ・野母崎地区活性化イベント: 200人 ・池島炭鉱閉山20周年事業ステップUP池島まつり: 300人 ・鯉・来い祭り IN 神浦川河川公園: 中止 ・神浦さんぼみち: 中止</p> <p>(成果・課題等) 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部の事業を中止したが、令和2年度よりも交流人口が増加するなど、過疎地域の魅力発信及び交流人口の拡大に寄与することができた。 今後もイベントの内容を見直ししながら、交流人口の拡大につなげていく。</p>		
4	<p>(事業名) ながさきウェルカム推進費 【移住支援室】</p> <p>(事業目的) 移住希望者のニーズにこたえ、徹底したサポートを行うことで、本市へのさらなる移住者の増加に繋げる。</p> <p>(事業概要) ・「ながさき移住ウェルカムプラザ」及び各種相談会での移住相談対応 ・移住支援のホームページ「ながさき人になろう」の運営、移住専門誌への記事掲載等による移住に関する情報発信 ・「レンタカー貸出サポート」等による移住準備や長崎の魅力体験の支援 ・「移住支援補助金」「子育て世帯ウェルカム補助金」による移住者に対する支援 ・ワーケーション受け入れによる関係人口の創出・拡大</p>	成果指標	移住者数
	目標値	200 人	
	実績値	418 人	
	達成率	209.0 %	
	決算(見込)額	41,853,047 円	
	成果指標及び目標値の説明	<p>移住者数が増加することにより、人口減少の抑制につながると考えられることから、長崎県外からの移住者数を成果指標と設定した。 本市への転入者が今後減少していく中においても、移住者を安定的に確保していくという考え方のもと、毎年度200人の移住者数を目標と設定した。</p>	
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 令和3年度移住者: 418人</p> <p>(成果・課題等) ・移住者数は3年連続で増加し、目標値も達成した。 ・長崎市が移住希望者の移住先に選ばれるよう長崎市で暮らす魅力の発信強化等を行っていく必要がある。 ・移住希望者が移住を実現できるよう、移住に関するきめ細やかな支援を行っていく。</p>		

令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	A2-2	まちの回遊性を高め、歩いて楽しいまちなかをつくります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図		
	まちなかが	市民や観光客で賑わっている。		
個別施策主管課名	まちなか事業推進室		所属長名	濱崎 高行

令和3年度の取組概要

歩いて楽しいまちなかとするため、「まちぶらプロジェクト」に基づきハード・ソフトの両面から取り組みを実施した。

①エリア別の主な取組み

【新大工エリア】

- ・新大工町地区市街地再開発事業や新大工町商店街プラン策定に対する支援を行った。
- ・新大工町商店街と事業者が連携して取り組むイベントに対する支援を行った。

【中島川・寺町・丸山エリア】

- ・エリアの魅力を高めるため、まちなみ形成のための町家の保存・修景の助成や歳時の顕在化への支援を行った。
- ・エリアの回遊性を高める地元の取り組みへの支援を行った。
- ・丸山～小島養生所跡資料館～館内エリアをつなぐマップを作成した。

【浜町・銅座エリア】

- ・浜町地区市街地再開発事業に対する支援を行った。
- ・商店街が連携した事業者の取り組みや、地元商店街が主催するイベント等に対する支援を行った。
- ・銅座川プロムナード整備を進め、活用に係る地元を含めた検討会議等を行った。

【館内・新地エリア】

- ・唐人屋敷跡の顕在化に係る整備等を実施した。
- ・唐人屋敷跡の魅力発信や、地元と高校生が連携した取り組みに対する支援を行った。

【東山手・南山手エリア】

- ・文化財、伝統的建造物の保存整備を行った。
- ・エリアの情報発信等を行う地元や事業者の取り組みに対する支援をした。
- ・地元まちづくり協議会と連携し、歴史まちづくり計画(グランドデザイン)の策定等を行った。

②軸づくりの取組み

- ・まちぶらプロジェクト映像の編集及び周知活動、放映先の開拓を行った。
- ・まちなか魅力発信ポスターを制作し、長崎駅周辺等で、掲示や配布を行った。

③地域力によるまちづくり

- ・まちなかの賑わい創出に取り組む市民等の活動を促進するための助成を行った。
- ・賑わい創出に寄与する市民等の取り組みをまちぶらプロジェクトに認定し支援した。
- ・まちなかの町家等を活用する助成制度を実施した。

評価(成果)

①エリア別の取組み

【新大工エリア】

- ・市街地再開発事業に対する技術的助言等を行うとともに、北街区の工事が進捗してきたことで、地元の再開発事業完成への期待が高まり、まちづくりへの意識醸成が図られた。
- ・新大工町商店街プラン策定の支援を行い、新大工町商店街の今後の在り方の協議を通し、まちづくりへの機運が高まった。
- ・商店街と事業者の連携により、商店街の賑わい向上につながり、地域と商店街との結びつきによる賑わいづくりのしくみができた。

【中島川・寺町・丸山エリア】

- ・町家風外観整備に対する助成を4件行い、また、歳時の情報発信等を行うことで、エリア全体の和の魅力が向上した。
- ・地元の取組みを支援し、また丸山・小島養生所跡資料館・館内エリアをつなぐマップを制作することで、エリアの回遊性向上に向けた準備が整った。

【浜町・銅座エリア】

- ・市街地再開発準備組合の理事会や、浜町地区全体のまちづくりに関する協議等で、技術的助言等を行い検討が進んだ。
- ・地元企業と商店街が連携するイベントが開催されたことで、今後の更なる賑わいの創出が期待されるとともに、地元商店街の若手が主体となって新たなイベントが開催されるなど、まちづくりの担い手が増加した。
- ・銅座川プロムナードの事業進捗が図られ、パース等により、完成後のイメージを共有したことで、地域のまちづくりへの意識醸成が図られた。

【館内・新地エリア】

- ・唐人屋敷跡の修景整備等により顕在化を進めるとともに、リーフレット等により魅力発信を行い、回遊性が向上した。
- ・地元の方や高校生が協力しまちづくりを行うなど、地元主体の取組みを支援することで、まちづくりの機運が高まった。

【東山手・南山手エリア】

- ・旧長崎英国領事館等の居留地の歴史的な建造物の保存整備が進み、また旧グラバー住宅の保存修理工事が完了するなど、魅力の顕在化が進んだ。
- ・地域で行っているバラ植栽への支援や、情報発信の支援により、地域の魅力が高まるとともにまちづくりに対する機運が高まった。
- ・地元と連携しながら歴史まちづくり計画の策定を行い、地域のまちづくりへの意識醸成が図られた。

②軸づくりの取組み

- ・まちぶらプロジェクト映像の短縮版を制作し、映像の放映先が増え、プロジェクトの効果的な周知が進んだ。
- ・「まちなかの食」へ誘導するポスター等を制作し、長崎駅や出島メッセで掲示や配布するなど、エリアの魅力の情報発信が進んだ。

③地域力によるまちづくり

- ・賑わい創出に貢献する市民や企業等の取組みをまちぶらプロジェクトに認定(9件)するとともに、認定事業者間が繋がれるような仕組みができたことで、まちづくりに対する機運が高まった。
- ・初動期の活動に対する助成(4件)を行うことで、まちなかの賑わいづくりの当事者としての意識醸成がなされた。
- ・まちなか町家等活用助成(1件)を行い、まちづくりに取り組みやすい環境づくりが進んだ。

評価(問題点とその要因)

①エリア別の主な取組み

【新大工エリア】

・地元の取組みへの支援は進めているものの、集客拠点が工事により一時閉店していることや、市場が閉店したこと、新型コロナウイルス感染拡大の状況も重なり、商店街の賑わいが低下している。

【中島川寺町丸山エリア】

・中島川・寺町・丸山エリアでは、回遊性向上のための道路整備や情報発信等、ハード・ソフトの取組みが進んでいるものの、眼鏡橋等の集客拠点の賑わいをエリア全体に十分に波及できていない。

【浜町・銅座エリア】

・市街地再開発事業の地権者間の合意形成や、浜町全体の具体的な取組みについて検討に時間を要している。

・銅座川プロムナードが整備中であるが、事業の進捗に時間を要している。

・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、賑わいを創出する社会実験ができていない。

【新地・館内エリア】

・唐人屋敷跡の顕在化事業は進んでいるものの、館内エリアと新地エリア間の一体感が十分でない。

・館内エリアでは中国文化を体験できる場が少なく、エリアの魅力を活かしきれていない。

【東山手・南山手エリア】

・東山手・南山手エリアでは、洋館活用の仕組みを検討中であり、市民や来訪客のニーズに合った魅力的な活用が進んでいない。

・土地利用等の規制により、消費・交流につながる機能の導入が難しく、グラバー園等の集客拠点の賑わいをエリア全体へ十分に波及できていない。

②軸づくりの取組み

・新型コロナウイルス感染症拡大のため、民間案内所等に係る事業者との連携に時間を要しており、まちなかへのさらなる人流の誘導が図れていない。

③地域力によるまちづくり

・市民のまちづくりに対する機運は向上中であるものの、まちぶらプロジェクトの認知度は充分ではなく、今後とも市民が新たにまちづくりの一員として参画する意欲を更に促す取組みが必要である。

今後の取組方針

①エリア別の主な取組み

【新大工エリア】

・令和4年度に新大工町地区市街地再開発事業が完成する予定であり、事業完成後も商店街の取組みを引き続き支援し、魅力や賑わいの向上に努める。

【中島川寺町丸山エリア】

・地域主体の歳時の顕在化への取組の支援や町家助成等を引き続き行い、和の魅力を高める。

・眼鏡橋等や、新市庁舎の集客を波及させるため、回遊路整備や情報発信を進める。

【浜町・銅座エリア】

・浜町地区市街地再開発準備組合や、地元商店街・企業への支援を引き続き行い、魅力や賑わいの向上に努める。

・銅座川プロムナードの活用方法や交流を生む仕掛け作り等について地元と検討を進める。

【館内・新地エリア】

・唐人屋敷跡の顕在化に係る広場等の整備を引き続き行い、エリアの賑わいの基盤づくりを進める。

・中国文化の体験ができる場の創出や、まちの魅力の発信等に地元と連携し取り組む。

【東山手・南山手エリア】

・地元協議会と連携し、実施計画(アクションプラン)について検討、実施を行う。

・歴史まちづくり計画等に基づき、地域と連携して、居留地の歴史・文化を活かした賑わいづくりを進める。

②軸づくりによる取組み

・回遊性向上を図るため、情報発信を工夫し、人の行動変容を促していく。

・長崎駅等の集客施設からまちなかへ人を誘導するため、民間事業者との連携も含め検討を進める。

③地域力によるまちづくり

・まちぶらプロジェクトの周知を図り、まちづくりへの市民の参画を促すため、10周年イベントやまちぶらプロジェクトの映像等により、効果的にまちなかの情報発信を行う。

・事業者間の相乗効果を生むために、職員のコーディネート力を向上させるとともに、事業者の中でもそうしたコーディネートができる人を発掘していく。また、事業者間で繋がるような仕組みを運用し、改善を図っていく。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3	
まちなか1日当たりの 歩行者通行量 【E5-2へ再掲】	平日 133,211人 (26年度)	↑	目標値	136,000	137,300	138,700	140,100	141,200	142,600
			実績値	140,294	140,964	141,528	138,697	108,928	103,690
			達成率	103.2%	102.7%	102.0%	99.0%	77.1%	72.7%
	休日 125,438人 (26年度)	↑	目標値	127,900	129,200	130,400	131,700	132,900	134,200
			実績値	145,197	133,302	130,119	134,373	135,033	100,838
			達成率	113.5%	103.2%	99.8%	102.0%	101.6%	75.1%
中心市街地(浜町～ 長崎駅～新大工地区 周辺)を活気があると 感じる市民の割合※1 【E5へ再掲】	40.6% (26年度)	↑	目標値	42.7%	43.8%	44.8%	45.9%	46.9%	47.9%
			実績値	39.5%	34.0%	41.4%	30.8%	17.8%	30.4%
			達成率	92.5%	77.6%	92.4%	67.1%	38.0%	63.5%
【補助代替指標】まち ぶらプロジェクト認定 件数 ※2	0件 (25年度)	↑	目標値	40	50	60	70	80	90
			実績値	40	51	62	68	80	89
			達成率	100.0%	102.0%	103.3%	97.1%	100.0%	98.9%

※1 平成30年度からは、「長崎市の中心市街地(長崎駅～新大工～中島川～浜町～新地～山手地区周辺)は昨年度に比べ活気(賑わい)があると感じますか」に変更した。

※2 まちぶらプロジェクトの認定を受けた企業・団体等の活動も、まちなかの賑わいづくりに寄与しているため、補助代替指標として設定した。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード:A2-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等		
1	(事業名) まちなか再生推進費 【まちなか事業推進室】 【E5-2へ再掲】 (事業目的) まちなかの人の回遊性を促すため、まちなか軸の活性化を中心に、各エリアの魅力を高める。 (事業概要) ・地域まちづくり活動支援の取り組み ・まちなか町家等活用助成 ・まちなみ整備等の取り組み ・まちなか賑わいづくり活動の支援など	成果指標	まちなかの1日あたりの歩行者通行量	
		目標値	平日142,600人 休日134,200人	
		実績値	平日103,690人 休日100,838人	
		達成率	平日72.7%休日75.1%	
		決算(見込)額	16,607,042 円	
		成果指標及び目標値の説明	歴史や文化を実感でき、またこれらを発信することで、人々が集い賑わうまちなかを目指すため、歩行者通行量を成果指標とした。	
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) ・町家等の保全、顕在化のための助成(4件) ・まちなか町家等活用助成(1件) ・まちなか賑わいづくり活動支援補助(4件) ・丸山～小島養生所跡資料館～館内エリアをつなぐマップの作成 ・地元と高校生が連携した取り組みに対する支援 ・まちぶらプロジェクトの取組概要やまちの魅力を発信する映像の放映先追加 ・まちなか魅力発信ポスターの作成及び配布 ・賑わい創出に寄与する市民等の取組をまちぶらプロジェクト認定(9件) (成果・課題等) 新型コロナウイルスによる影響を受け、目標に及ばなかった。 一方で、当年度は、まちなか賑わいづくり活動支援事業によるまちなかの魅力を発信する新たな土産物の開発、事業者と地元商店街が連携したイベントの実施もあり、コロナ禍においても、新たな賑わい創出の工夫が見られた。 今後、さらにまちなかの賑わいを創出していくため、まちなかの魅力向上を図り、長崎駅等の集客拠点から、まちなかへ人を誘導することが今後の課題である。	

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード:A2-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等		
2	(事業名) 【補助】市街地再開発事業費 新大工町地区 【E5-2へ再掲】 【都市計画課】 (事業目的) 地元組合が、施設の老朽化・耐震化、地区の賑わい再生を実現するために実施する市街地再開発事業に対し、支援を行う。 (事業概要) 【事業期間】平成26年度～ 【施行予定区域面積】A=0.7ha 【事業種別】第1種市街地再開発事業 【総事業費】17,408,522千円 【事業費累計】15,986,418千円	成果指標	事業進捗率(事業費ベース)	
		目標値	92.7 %	
		総事業進捗率	74.1 %	
		達成率	79.9 %	
		決算(見込)額	1,433,846,760 円	
		当該年度執行率	81.9 %	
		成果指標及び目標値の説明	本組合設立に伴い、本格的に事業が進められることから、進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績) ・組合が実施する建築工事等に対し、支援を行った。 ・建築工事において、新型コロナウイルス感染症の影響により仕入先の人員不足に伴う生産量低下等による資材調達の遅延が生じ、予定出来高を下回ることから予定していた事業の一部を次年度に繰越した。 (成果・課題等) ・建築工事の施工。 ・令和4年度の完成を目指し円滑な推進を図るため、技術的助言や事業費補助などの支援を実施する。			
3	(事業名) 市街地再開発事業(浜町地区) 【E5-2へ再掲】 【都市計画課】 (事業目的) 地元準備組合が、施設の老朽化・耐震化、地区の賑わい再生を実現するために実施する市街地再開発事業に対し、支援を行う。 (事業概要) 【事業期間】平成27年度～ 【施行予定区域面積】A=3.7ha 【事業種別】第1種市街地再開発事業	成果指標	理事会への支援率	
		目標値	100.0 %	
		実績値	100.0 %	
		達成率	100.0 %	
		決算(見込)額	0 円	
		成果指標及び目標値の説明	事業の初期期にあり、合意形成を進めていく段階にあることから、成果指標を準備組合の理事会開催に伴う市の支援率とした。 令和3年度、準備組合が開催する合意形成に向けた理事会の全回数の支援を予定していたため、目標率を100%とした。	
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) ・準備組合が推進計画案を基に実施する合意形成に向けた理事会に17回(全回数)出席し、技術的助言などの支援を行った。 (成果・課題等) ・令和3年度は、準備組合において事業の具体化の検討が進められた。 ・令和4年度は、事業の具体化に向けて更なる検討や都市計画決定の素案作成を目指す。	

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード:A2-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
4	(事業名) 【補助】都市計画街路整備事業 銅座町松が枝町線(銅座工区) 【土木建設課】 (事業目的) まちなか(銅座工区)の賑わいの再生及び防災性の向上、交通環境の改善を図るため、道路の拡幅改良を行うもの。 (事業概要) 【事業期間】平成26年度～令和6年度 【総事業量】L=420m、W=15.0m 【総事業費】4,621,000千円 【事業費累計】1,978,169千円	成果指標	事業進捗率(事業費ベース)
		目標値	43.3 %
		総事業進捗率	42.8 %
		達成率	98.8 %
		決算(見込)額	346,430,842 円
		当該年度執行率	94.3 %
		成果指標及び目標値の説明	事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 用地取得A=92㎡、移転補償2件、建物調査等を実施した。 また、国の1次補正に伴う用地取得が年度内に完了しない見込みであったことから令和4年度に繰り越した。 (成果・課題等) 用地取得を推進し、事業進捗を図る。		
5	(事業名) 【補助】都市計画街路整備事業 新地町稲田町線 【土木建設課】 (事業目的) 十善寺地区の交通環境の改善及び居住環境の向上、まちなかの回遊性向上を図るため、道路の拡幅改良を行うもの。 (事業概要) 【事業期間】平成12年度～令和4年度 【総事業量】L=400m、W=15.0m 【総事業費】4,100,000千円 【事業費累計】3,261,593千円	成果指標	事業進捗率(事業費ベース)
		目標値	80.2 %
		総事業進捗率	79.6 %
		達成率	99.3 %
		決算(見込)額	28,021,567 円
		当該年度執行率	51.7 %
		成果指標及び目標値の説明	事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 工事L=100m、用地取得A=61㎡を実施した。 また、国の1次補正に伴う工事が年度内に完了しない見込みであったことから令和4年度に繰り越した。 (成果・課題等) 用地未買収部分の交渉を進め、電線類地中化との工事連携を図りながら事業進捗に努める。		

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード:A2-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
6	(事業名) 唐人屋敷顕在化事業 【都市計画課】 【中央総合事務所】 (事業目的) 歴史を生かした観光拠点の整備などにより、 日中交流の歴史がいきづいたまちづくりを行う。 (事業概要) 【事業期間】平成17年度～令和5年度 【総事業量】広場整備、唐人屋敷象徴門(誘導 門、大門)建設、地域拠点施設整備(資料館、情 報センター) 【総事業費】1,160,215千円 【事業費累計】710,236千円	成果指標	事業進捗率(事業費ベース)
		目標値	79.0 %
		総事業進捗率	61.2 %
		達成率	77.5 %
		決算(見込)額	26,996,190 円
		当該年度執行率	99.0 %
		成果指標及 び目標値の 説明	事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費 に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標 とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。
取組実績 、成果・課題 等	(取組実績) (仮称)土神堂前公園予定地(牟田口市場)の解体等を行 った。 (成果・課題等) 達成率が低いものの、公園予定地全体の建物の解体が できた。今後は、公園の早期完成を図る。		